

## \* GP 農法だより \*

完全無農薬自然農法 元氣パワー農法

発行 GP 農法研究会 NO19

代表 佐藤 隆

〒344-0041 埼玉県春日部市増富 243-53

TEL 090-4672-1285 FAX 048-763-5362

《ふるさと産直みほん市に参加、そして、その時の  
模様が生協流通新聞に掲載されました！！》

11月27日「ふるさと産直みほん市2013」(農民連ふるさとネットワーク主催)が東京・大田区産業プラザにて開催されました。

全国(北海道から沖縄まで)100地域から野菜・お米・果樹・その加工品等が出店され、たいへん賑わいました。

農民連埼玉支部そして「GP農法研究会」は、主催者側から「ぜひ参加して GP 農法を紹介して欲しい」との要請を受けて、会場の中央のブースで参加してきました。

今回は、【GP野菜】と一般に販売させている野菜との**食べ比べ**、そして【GP米】(特上米)の**試食**を用意しました。

「無農薬では野菜はできない」という固定観念をくつがえす、【完全無農薬・GP農法】に、多くの方が衝撃を受けて立ち止まり、強い関心を寄せていました。



(試食でスーパーの野菜と比較し GP 野菜の甘みを  
実感している参加者)

【GP野菜】と一般野菜の食べ比べには、カブ、人参、大根・小松菜・キャベツを用意し試食してもらい、アンケートでの回答をしてもらいました。野菜に関しては46人の回答があり、特にカブ・人参は、ほとんどの方がスーパーの物より甘みが強いと好評価でした。

又、「GP農法」の**体験者の方々**も沢山訪れ、失敗してしまった体験談など生の声も聞かせていただきました。

### 【体験談】

「ブドウ畑に GP 農法を取り入れ。2年目。良くできたが、灰カビが出て、農薬を使ってしまった。」

「水稲に GP 農法を取り入れ。草が多くはえ、収穫量が少し減った」

「草のエキスをかけるタイミングがわからなかった」

「イチゴ栽培。GP を取り入れたが、多雨対策を間違えた」

「トマト栽培。カロチンの数値は減ったが、増収で黒字になった。」

### 【体験談について】

全員が全員問題なく農作物が出来ているわけではなく、やはり自分流になってしまい失敗することもある様です。

しかし、もっとくわしく話を伺うと、

「農薬は使わなかった。でも、土壤消毒はした。」

「苗の育成に、市販の培養土を使った」

ということを多く聞きました。

ここが大きな落とし穴です！

GP 農法には石灰も使いません。土壤微生物が元気ならば、その微生物による力で、土の pH 状態も本来土があるべき状態になっていきます。

また、培養土は、化学的な物質により調合されています。

GP 農法では、**苗の段階から【無農薬栽培】**を提案します。

今後は「GP農法」を取り入れてもらうだけでなく、取り入れた生産者をどうフォローしていくか？が課題として上がってきました。

草のエキスの散布については、この時期でなければいけない、とか、この希釈率でないといけない、ということが基本的にはありません。土や作物の状態によって回数を増やしたり、濃度を上げてみたり、柔軟に対応していくことができます

GP 農法ホームページ

<http://www.gpnouhou.jp/>

どうぞ、ご覧ください

